

2024年度 事業報告書

1 事業の成果

2024年度は法人事業として6年目を迎え、無事に1年間の活動を終えることができた。この5年間の事業・活動により、2024年度は多くの依頼をいただくことができ、法人としての新たな取り組みが増え、活動の幅を広げることができた。また、代表理事を務める川口がNP0法人海に学ぶ体験活動協議会（CNAC）の理事、静岡県青少年育成会議の運営委員、公益財団法人B&G財団の『自然体験活動による郷土教育』における1期2年の専任講師に就任するなど、他団体や他組織とのつながりが強くなり、多方面に出向く業務が多くなった。一方で、御前崎市をフィールドに取り組む活動においては、地域として求めているもの・求められているものなど改めて多くの課題が散見され、継続的な活動を行っていく為の限界点も見えてくる状況となった。

【自然楽校事業】

昨年度の半期型定期プログラムで得られた情報や結果などを基に、2024年度から新たな取り組みとして、1年間の定期プログラム『マリンキッズ』を開始。2024年年明け頃からチラシ等で募集を行うが、2024年度を迎え活動開始時の申込は5名にとどまり、定員の半数以下で活動が開始となる。決まったメンバーで1年間を通して海辺の活動を行うマリンキッズプログラムは、活動としては充実し、子どもたちの海に対する意識や対応力、子どもたち同士の関係性など、当法人として目指すプログラムを実施することができた。当法人としては大切にしていきたい活動ではあるが、反響は少なく、保護者の方からは新たな課題「送迎の大変さ。送迎の間の待ち時間の使い方の難しさ」が明確となる結果となった。2025年度も継続していきたいと考えているが、何かしらの対策を講じる必要がある。

『アース・キッズ』では、昨年度得られた情報や結果をふまえ、12・1月を除く毎月1回、海の森をテーマにした『海のもり』プログラムを実施。また、『里のめぐみ』プログラムとして5月には田植え、9月には稲刈り。11～1月は、竹を活用したプログラムを実施。これまで同様、環境学習を目的とし、どなたでも参加していただきやすい体制で実施。『海のもり』プログラムにおいては、久々生海岸で取り組む活動に対して「ゆうちょエココミュニケーション」さまから活動助成をいただくことができ、また、それ以外の海プログラムに対しては「連合・愛のキャンパ」さまからの活動助成をいただくことができ、活動内で活用させていただくための器材を充実させることができ、活動自体も充実させることができた。8月に予定していた「海の森を海中散歩」のプログラムは天候不良に伴い中止となってしまったが、どのプログラムにおいても、静岡県内外から多くの方にご参加いただくことができ、賛助会員の増加にもつなげることができた。『里のめぐみ』プログラムにおいても、これまでの活動で得た情報や結果をふまえ、課題に対して明確に対策をとることで、多くの方にご参加いただくことはできたが、やはり、『御前崎』という地域に対するニーズが明確であることから、集客面では苦戦することがあった。次年度は更なる対策を講じていく必要がある。

オープンプログラムにおいては、2023年度同様、明らかに申込数が減少している。2024年度の開催件数は1件。物価高騰などの影響があるのかも知れないが、このことから、御前崎市に対する観光的なニーズの衰退も明らかになりつつあるように感じる。次年度においても、継続的にニーズ把握に取り組んでいきたい。

2024年度も実験的な取り組みを行うことで、当法人に対してだけでなく、御前崎という地域に求められているニーズを探り、把握することができてきている。特に、当法人に求められていることが明確になってきていることから、自然体験活動や環境学習活動を通して、自然を楽しみ、身近に感じていただくことで、海をはじめとする自然や環境だけでなく、「自然・環境・社会」のつながりなどについても、興味や関心を育むことができ始めていると感じる。

【未来にのこす事業】

自然や環境の保全を目的とした『ハチドリaction.』、自然の中で活動・活躍する指導者の育成に取り組む『インタープリター養成』、自然や環境に配慮した農的活動『結び』ともに、継続して活動を実施。ハチドリaction.として取り組む『久々生海岸 里海プロジェクト』では、延べ403名の方にご協力いただき、1年度間で41回の保全活動を実施。約10,125ℓ、約970kg分の漂着ゴミを回収することができた。昨年度に引き続き、7月に小笠南地区 労働福祉協議会の皆様と共に取り組むビーチクリーンを実施。また、11月には静岡県御前崎港事務所および国土交通省中部地方整備局の皆様によるお声がけをいただき、御前崎港 安全協議会の皆様と共に、久々生海岸の一斉清掃を行うことができた。この際、通常処理ができないガラス類や缶類、流木などを撤去していただき、ビン類 約45ℓ、缶類 約60ℓ、大型漂着ゴミ 約8,000ℓ、流木 約32,000ℓ分を撤去していただくことができた。また、県内企業の皆様と取り組む協働的な海岸保全活動も継続的に実施し、5つの県内企業の方が団体賛助会員として登録してくださり、2か月に1回程度、活動を行っている。今後も継続的に協働活動を行っていきけるよう、関係性強化を図っていきたい。その一方で、昨年度同様に、一般市民の環境保全に対する意識の低下が感じられる。私たちの取り組みに限らず、他団体の取り組みでもその様子が見えてくる。アース・キッズの活動内でも海岸保全活動に取り組み、呼びかけを行っていく必要がある。久々生海岸の調査・研究的取り組みについては、昨年度同様、東海大学 仁木研究室の皆様がご協力くださる。久々生海岸からサンプリングした土壌を使った生育の比較検証では、他の土壌よりも生育が良い

ことが明らかになり、リンの成分も多く含まれていることが分かった。このことから、久々生海岸のアマモ場の土壌成分分析を行う必要性が高まり、協力していただける調査研究会社の方とつながることができ、2025年度の実施に向け準備を進めることができています。また昨年度に引き続き、J-ブルークレジットの認証をいただくことができた。加えて、2025年度から施行される生物多様性増進法に基づく自然共生サイトへの認証を受けるため、当法人が主体となり、県港湾局の皆様にもご協力いただき申請を行っている。今年度も、久々生海岸で取り組む私たちの活動に対して、興洋海運株式会社様より寄付をいただくことができた。次年度以降も継続的に活動を行い、多くの方に久々生海岸やアマモ場の様子、海の現状を知っていただけるよう活動に取り組んでいきたい。『里山まもり隊』として取り組む竹林整備活動では、アース・キッズの活動に合わせて実施。整備の際に切り出した竹は里のめぐみプログラム内で活用。海と里山のつながりだけでなく、竹林整備の大切さを間接的に伝えることができたが、里山保全活動への意識向上には至っていない。次年度以降においては、里山保全活動にも協力していただくための工夫が必要。

『インタープリター養成』では、6月にNEALリーダー養成講座を開講。また、今年度から日本キャンプ協会課程認定団体に登録することができ、8月にキャンピングストラクター養成講座を開講。両講座とも、県内外から多くの方が参加者してくださる。次年度は、2泊3日で両講座を同時開催できるよう計画している。

『結び』では、昨年度同様に市内比木地区の田んぼを借用。田んぼに集まる生きものたちとの共生・共存を目指す池をさらに整備し、農薬を使わない稲作を実施。池には多くの生きものが集まり、田んぼの生きもの観察フィールドとして活用。インガメ等だけでなく、淡水シジミの生息も確認することができ、私たちが目指す、田んぼの生きものたちと共生・共存する田んぼが定着しはじめている。

【 むすびつなぐ事業 】

今年度も『協働Program』が主となり活動に取り組む。御前崎市教育委員会が主催する「御前崎クエスト」は本年度も事業受託。大きな変更点は無く、8年目の事業を無事に終えることができた。また、御前崎市社会教育課が取り組む市内小学校を対象とした「海洋体験活動」や御前崎市環境課の皆さんと共に取り組む「御前崎 環境出前講座」においても、継続して講師を受託。これまでの活動成果により、改めに、公益財団法人B&G財団様から『自然体験活動による郷土教育』における1期2年の専任講師、独立行政法人 国立青少年教育振興機構様から、NEALコーディネーター養成講座の講師の依頼をいただく。今年度も多くの方々と協働的に取り組む活動を実施することができたと同時に、自然体験活動の基盤構築のための業務として出向く取り組みが増えた。2025年度においても、講師としての依頼などをいただいている。

また今年度から『つどいの広場』の取り組みとして、法人施設『セミナーハウス』を開所。地域の方から久々生海岸近くの一軒家をお借りすることができ、セミナーハウスとして講座やプログラムの拠点として活用していく。加えて、「みなと総研 未来のみなとづくり助成(港湾協力団体活動)」さまから活動助成をいただき、3月の春休みシーズンに法人初となるイベント『おまえざき まちのなかの水族館』を開催。県内の水族館施設や水槽メンテナンスを行う事業者、大学のサークルや専門学校の皆さんに水槽展示のご協力をいただき、御前崎市観光物産会館なぶら館の1階展示スペースをお借りし、4日間限定の水族館を開所。平日を含む4日間ではあったが、延べ650名ほどの方が来場してくださり、大きな賑わいを作ることができた。当法人としては、御前崎の海岸で拾うことができる貝がらを活用したレジンキーホルダーづくりのワークショップも実施。実験的な取り組みではあったが、50名ほどの方が参加してくださった。イベント期間中は、御前崎市における観光的なアンケートも実施。御前崎市の観光について、他地域に住む方からどのように観ているのか・感じているのか、御前崎市の観光に求められるニーズを探ることができ、課題が明らかとなった。ここで見てきた課題は、自然楽校事業で取り組むマリンキッズの課題にも通じる点が多く、課題をしっかりと把握した上で、対応策を講じる方がいいのか？もしくは、別案や代替案を検討したほうがいいのか、しっかりと検討を行い、2025年度に活かしていく必要がある。

会員の皆さんとの交流活動として、『Member's Camp』も開催。初めての取り組みではあったが、会員の皆さんとキャンプを通して交流を深め、楽しい時間を過ごすことができた。

法人全体として多くのお声明けをいただくことができ、今年度もさまざまな活動に取り組むことができた。『私たちらしさ・私たちだからこその活動や強み・私たちが目指すもの』を多くの方に認知していただくことができ、それらが法人としての事業につながり、実りある良い1年となった。加えて、活動時に会員募集に関する呼びかけを繰り返し行うことで、賛助会員の増加にもつながっている。次年度以降も、継続的に取り組んでいく必要がある。しかしその一方で、私たち法人だけではどうしてもできない地域としての課題が明らかとなってしまっていることもふまえ、今後の法人運営における方向性をしっかりと見定めていく必要がある。法人運営面においてもまだまだ安定という状況を構築できていないが、法人運営の方向性を再考し、安定的な事業運営を目指すためにも、職員の増員が必要な状況となってきている。今年度の取り組みに満足することなく、2025年度においても取り組みの継続・強化・発展・見直しを行い、より良い活動を、より多くの方に届けることができるよう、より多くの方々と連携・協働を図り、より良いプログラム・活動づくりを行っていきたい。そして、法人事業に直接的に関わってくださる方を増やしていきたい。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
自然楽校事業	ネイチャーズ マリンキッズ	4～翌年3月 月1回(全12回)	久々生海岸 他 御前崎市内	2人	一般参加者 合計5名	220
	アース・キッズ	4～翌年3月 月1回(全12回)	久々生海岸 他 御前崎市内	5人	一般参加者 合計237名	800
	オープンプログラム シーカヤック体験等	8月	久々生海岸	2人	一般参加者 合計2名	15
未来にのこす 事業	ハチドリaction. 里海プロジェクト	4月～翌年3月末 全41回	久々生海岸	5人	保全協力者 合計403名	20
	ハチドリaction. 里山まもり隊	11月～翌年1月 全3回	御前崎市内の 竹林	2人	整備協力者 合計5名	5
	結び 休耕田を活用した稲作	4月～翌年2月	御前崎市内の 田んぼ	5人	一般参加者 合計25名	20
	インタープリター養成	6月、8月 全2回	御前崎市内	2人	一般参加者 10名	100
むすびつながる 事業	協働Program 御前崎クエスト ファミリープログラム	偶数月に1回 全6回	御前崎市内 各所	2人	市内在住の家族 3家族 8名登録	470
	協働Program 御前崎クエスト キッズプログラム	5, 7, 9, 10, 12, 翌 年2月 全6回	御前崎市内 各所	3人	市内児童 15名登録	840
	協働Program 御前崎クエスト ジュニアプログラム	毎月1回 全13回	御前崎市内 各所	5人	市内児童 32名登録	1,945
	協働Program 御前崎クエスト グローバルプログラム	毎月3～4回 全46回	御前崎市内 各所	2人	市内児童 21名登録	1,420
	協働Program 御前崎クエスト ユースプログラム	奇数月に1回 全6回	御前崎市内 各所	2人	市内在住在勤者 4名登録	450
	協働Program 御前崎 環境出前講座	6～7月 全5回	御前崎市内 小学校 5校	2人	対象小学校・学 年児童 約300名	150
	協働Program 海洋体験活動指導	6～7月 全5回	御前崎市内 小学校 5校	2人	対象小学校・学 年児童 約300名	200
	協働Program 御前崎 未来ゼミ	11月 全1回	御前崎市内	1人	一般参加者 18名登録	20
	協働Program 講師等の活動	通年	関係各所	1人	一般参加者等	400
	Member's Camp	11月	御前崎市内	2人	法人会員 7名	50
	おまえざき まちなかの水族館	3月	御前崎市内	5人	不特定多数	460
	EC LAB0.	毎月1回	御前崎市内	2人	法人登録指導者	15
	ホームページやSNSの 管理運営	随時	法人事務所	2人	不特定多数	15

- * 1 「事業の実施に関する事項」は、事業ごとにそれぞれの項目を記載する。
- 2 「受益対象者の範囲及び人数」は、具体的に記載する。
- 3 2 (2)は、定款に「その他の事業」の記載がない場合には不要。
- 4 定款に掲載している事業で報告書に掲載していないものは、その理由を記載する。